

令和4年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツ用具活用促進事業)

成果報告書

2023年3月
名古屋市

本報告書は、スポーツ庁の令和4年度委託事業として、名古屋市が実施した令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ用具活用促進事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1 事業趣旨

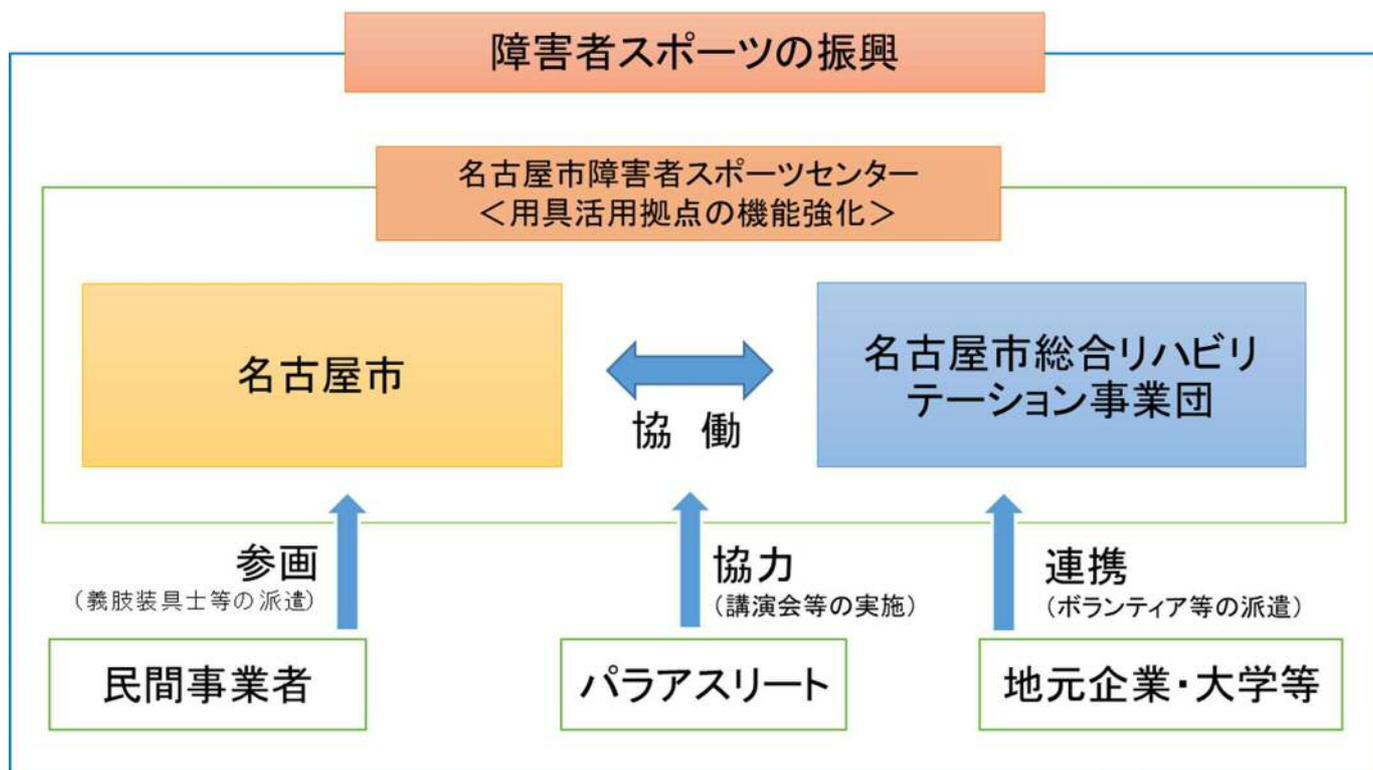
東京 2020 パラリンピック競技大会が開催されたことにより、障害者スポーツへの注目が集まったところだが、本市・愛知県においては 2026 年に第 5 回アジアパラ競技大会の開催が決定されるなど、さらに障害者スポーツを振興していくため、本市において 2 館目となる新たな障害者スポーツセンターの整備を進めているところである。

しかしながら、全国及び本市においても障害者のスポーツ実施率は全体の実施率と比較して低くとどまっていることから、その向上を図っていくことが必要不可欠であるが、令和 3 年度の「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」にもあるとおり、金銭的な余裕がないことが障害者にとってスポーツに取り組む際の障壁の一つとなっている。

そこで実際に競技に取り組んでいるパラアスリートとの体験会を通じ、スポーツを楽しむ機会を創出しスポーツを始める契機を提供する。また障害者がスポーツを行う上で障壁となっている経済的な負担に対して、個々人での購入が容易でない高額な障害者スポーツ用の補装具を一時的に貸し出すとともにスポーツ指導を行う教室を開催することにより、障害者スポーツセンターの機能を強化し、障害者スポーツの振興を図る。

さらにはそうした補装具の調整や取り扱いを行う人材の育成も図ることにより本市の障害者スポーツセンターのさらなる機能強化を図り、東海 4 県で唯一の公益財団法人日本パラスポーツ協会の障害者スポーツセンター協議会に所属している障害者スポーツセンターとして、本市のみならずこの地域の障害者スポーツ用具の活用拠点として環境の整備を行っていく。

2 事業実施体制



なお、当該事業の実施にあたっては、本市の障害者スポーツセンターの指定管理者である（社福）名古屋市総合リハビリテーション事業団と本市が協働していく。

また、連携した地元企業等として、パラアスリートによる講演会・体験会、競技用補装具貸出事業（スポーツ用義足）においては、地元企業であるトヨタ自動車（株）のパラ陸上のアスリートに参加いただいた。競技用補装具貸出事業（スポーツ用車いす）については、日本ガイシ（株）にご協力いただき、日本ガイシの関係事業者が運営する屋外コート会場とさせていただくと共に、コーチやボランティアを派遣いただく等、ご協力いただいた。

義肢装具士等の派遣について、義足の専門家である（株）松本義肢製作所や、（学）珪山学園専門学校日本聴能言語福祉学院の義肢装具士にも参加いただいた。

3 取組内容

(1) 実施概要・スケジュール

実施時期	実施事項		
	(1) パラアスリートによる講演会・体験会	(2) 競技用補装具貸出事業（スポーツ用義足）	(3) 競技用補装具貸出事業（スポーツ用車いす）
11月	1日 スポーツ庁との委託契約の締結		
	・講師等の選定	・教室開催に向けた準備・打合せ	・27日（車いすテニス体験会）@民間企業所有のテニスコート
12月	・講師、委託業者等との打ち合わせ		
1月		15日（事前講習会）@障害者スポーツセンター	
2月	・講演会・体験会の開催 26日@障害者スポーツセンター	・義足体験会の開催 4日@東生涯学習センター 18日@福祉スポーツセンター 26日@障害者スポーツセンター	
3月			・スポーツ用車いす貸出開始

※ スポーツ庁との委託契約の締結が、当初の想定より後ろ倒しとなったため、企画提案書の取組内容について、実施期間や回数を見直す等、修正を行った。

(2) 整備した競技用補装具

障害者がスポーツを始めるきっかけとして、スポーツを楽しむ機会を創出し、個々人での購入が容易ではないスポーツ用義足及び車いすをレンタルするだけでなく、初心者向けの教室を合わせて実施することで、より多くの人々がスポーツに取り組むことができる環境を整備した。

以下の競技用補装具について、本市で購入し、障害者スポーツセンターにおいて実施する競技用補装具貸出事業で使用した。

①スポーツ用義足 5セット

大腿用義足（大人用）	1
下腿用義足（大人用）	2
下腿用義足（小児用）	2

②スポーツ用車いす 5台

テニス用車いす（大人用）	2
スポーツ用車いす（小児用）	3

(3) パラアスリートによる講演会・体験会

①概要

	内容	
日時	令和5年2月26日(日) 10時～12時	
場所	名古屋市障害者スポーツセンター体育室	
講演者	石本直美選手（車いすテニス）、佐藤圭太選手（パラ陸上競技・トヨタ自動車）	
参加者	50名（うち障害者5名）	
タイム テーブ ル	【第1部】10時～ 講演会「パラスポーツについて知ろう」	
	10時～	開会・ガイダンス
	10時5分～	トークライブ「現役アスリートが語る競技の魅力」
	10時50分～	休憩
	【第2部】11時～ 体験会「パラスポーツをやってみよう！」	
	11時～	現役アスリートによるデモンストレーション
	11時10分～	体験会～2か所に分かれて、車いすテニス・パラ陸上（義足体験）
	11時50分～	まとめ
	12時	閉会
その他	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中で、講演、デモンストレーション、2種類の体験会を行ったため、時間配分やスタッフの配置に苦慮した。 当日の様子については、トヨタ自動車（株）運動部のFacebookにも掲載いただいた。 	

② 第1部（講演会「パラスポーツについて知ろう」）

	内容
趣旨	競技に取り組んでいる現役パラアスリート2名による講演会を実施し、障害の有無にかかわらず参加いただくことで、障害者スポーツへの普及啓発・理解促進を図り、スポーツを通じた共生社会の実現を目指す
流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・競技との出会い、競技用補装具の紹介 ・競技の魅力や印象に残っている場面、エピソード ・近年のパラスポーツに対する周囲の理解、認知度 これらのテーマについて、石本選手、佐藤選手にそれぞれお話いただいた。
概要	○競技の魅力 <ul style="list-style-type: none"> ・片脚がなくて、脚がないと大変だろうとを感じるが、足はないけど足が速いわけで、これだけできるんだ、というマインドセットが大事（佐藤） ・ラケットとボールがあれば、コートに行って誰とでも、健常者とも仲良くプレイできること（石本） ○近年のパラスポーツに対する周囲の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや交流活動を通じて理解することで、障害を見た目で見るよりも、見方が変わってくるので、こうした取組みを進めることが重要（佐藤） ・練習していると、最近ではコートの外から見ている人から声をかけていただけることが励みになっている（石本）

【2月26日（日）講演会の様子】



スポーツ推進部長より挨拶



お二人に競技の魅力などお話いただいた



佐藤圭太選手と石本直美選手に、トークライブ形式で、ざっくばらんにお話いただいた



幼児から70歳代の方まで様々な年代の方が参加されました

③ 第2部（体験会「パラスポーツをやってみよう！」）

○デモンストレーション（車いすテニス）

- ・安全面を考慮して、簡易ネットと柔らかいボールを使用して実施。石本選手が名古屋市総合リハビリテーション事業団の体育指導員を相手にラリーを実演。



○デモンストレーション（パラ陸上競技）

- ・佐藤選手より、装着しているスポーツ用義足の素材や仕組みを説明の上で、その場でのジャンプや、体育室内でランニングを実演。



○体験会（車いすテニス）

	内容
流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・競技用車いすに乗ってコート内を走る。 ・競技用車いすに乗って、ラケットを持ってコート内を走る。 ・スポンジボールを止まって打つ。 ・スポンジボールを走って近づき打つ。 ・最後に、全体で、3人1組になって、石本選手とラリーを実施。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループに分かれて、簡易ネットを2つ使用して実施。 ・19人の参加者が、貸出用のスポーツ用車いすにそれぞれ乗車。 ・石本選手が全体の進行を行い、名古屋市総合リハビリテーション事業団の体育指導員2名がそれぞれ分かれて、指導。

（スタッフ役割）

石本選手	デモンストレーション、全体進行、全体指導
リハビリテーション事業団（体育指導員）2名	デモンストレーション、各コートの進行、指導
委託業者3名	交通整理、球拾い



石本選手が丁寧に指導をされていました



様々な年代の方が参加されました

○体験会（パラ陸上競技）

	内容
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ用模擬義足を用いて、受付順で14人が装着・歩行・走行体験を実施した。 ・スポーツ用模擬義足については、大腿義足用と両脚下肢義足用を計5セット準備し、順に実施。義肢装具士が参加者に装着し、指導。 ・待機している参加者は、適宜、現役パラアスリートの佐藤選手や近藤選手に質問していただいた。
流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの5名が義肢装具士等の指導のもと、スポーツ用模擬義足を装着（以後、5名ずつ実施）。 ・平行棒等を用いて、歩行練習を実施。 ・義肢装具士や選手等が個別に付添いのもとで、歩行等を実施。 ・慣れてきたら、スタッフ付添いで、軽く走行を実施。 ・以上の流れで、順に計14名が体験を実施。

（スタッフ役割）

佐藤選手	デモンストレーション
(株)松本義肢製作所 4名	体験義足の装着、歩行指導
リハビリテーション事業団（肢装具士等、理学療法士）4名	歩行指導フォロー
<ul style="list-style-type: none"> ・日本聴能言語福祉学院 専任教員 芥川雅也氏 ・近藤秀選手（パラ陸上競技） 	注意事項説明、体験義足の装着、歩行指導



参加者にはマンツーマンで対応しました



様々な年代の方が参加されました

カ 参加者感想

- ・トップアスリートとして活躍されている人の話を聞く機会がとても良かった。
- ・パラスポーツ選手の生の声を聞くことができ、義足やパラテニス用車いすの構造等、未知の話が聞けて理解が深まった。
- ・実際のお話と体験ができて、理解が深まりました。スポーツを通じて楽しむことが、色々な世界をつなぐツールであると実感しました。
- ・トップアスリートのお話を直接聞けたこと。体験機会を楽しめたこと。
- ・義肢装具を学ぶ学生として、ユーザーと同じ目線や使用感を体験でき、モチベーションにつながった。
- ・色々な種類の模擬義足が体験できて楽しかったです！義肢装具士の勉強をもっとがんばりたいと改めて思いました！
- ・無料で体験できて、敷居が低い感じが参加しやすかった。
- ・理学療法士として働いていますが、実際に体験できる機会は少ないので、とても貴重な会で嬉しく思いました。
- ・車いすテニスの体験をしてみたいと思っていたので、機会があり良かったです。義足はたくさん種類がありびっくりしました。実際に選手のデモンストレーションを見れて良かったです。
- ・何も障害がないので義足をはめたことがなく、今日できたからいいなと思いました。
- ・障害者スポーツを身近に感じられた。楽しかったです。

(4) 競技用補装具貸出事業（スポーツ用義足）

ア スポーツ用義足体験会事前講習会

スポーツ用義足については、取扱いが出来る人材が少なく、支援する人材の育成が課題となっていた。そこで、本市障害者スポーツセンターにおいて障がい者スポーツ指導員、スポーツ指導者、義肢装具士や理学療法士等に対してスポーツ用義足の講習会を実施することによりスポーツ用義足に対する理解を深め、障害者スポーツを支える人材の育成を行い、本市の障害者スポーツセンターの機能向上を図るため実施した。

①内容

日時	令和5年1月15日（日）14時～15時30分
場所	名古屋市障害者スポーツセンター（会議室、体育室）
講師等	・（学）珪山学園専門学校 日本聴能言語福祉学院 専任教員 芥川雅也氏 ・近藤秀選手（パラ陸上競技）
参加者	13名
内容	第1部 芥川氏（義肢装具士）による講義 スポーツ用義足の基礎について、以下の観点から講義いただいた。 ・スポーツ用義足の製作数が少ない要因 ・スポーツ用義足の製作の流れ ・製作方法の変遷 ・スポーツ用義足の適応
	第2部 デモンストレーション・スポーツ用模擬義足の装着体験 ・近藤選手が日常用義足とスポーツ義足での走行の違い等について実演 ・平行棒等を用いて、歩行練習を実施。 ・義肢装具士や選手等が個別に付添いのもとで、歩行等を実施。 ・慣れてきたら、軽く走行を実施。
その他	体験教室のスタッフだけに限らず、名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会等に所属する障がい者スポーツ指導員、理学療法士・義肢装具士等の医療従事者も対象とした。

②スタッフ役割

日本聴能言語福祉学院 芥川氏	講師（座学）、体験指導
パラ陸上競技 近藤選手	講師（デモンストレーション）、体験指導
（株）松本義肢製作所・義肢装具士	義足装着体験の実施、体験指導
名古屋市総合リハビリテーション事業団 ・義肢装具士等 ・理学療法士 ・体育指導員	聴講・体験

③参加者感想

<p>・参加者アンケートでは、研修内容については肯定的評価をいただいた。今後希望する講習内容として、理学療法士からは、「実際の調整の流れについて」、「スポーツ義足ユーザーのトレーニング方法や日々のメンテナンスについて知りたい」、「小児用義足、ライナーについても講義願いたい」といった声があった。</p>



第1部は講義形式で実施しました



近藤選手にも指導いただきました



体育指導員にもご参加いただきました



両脚のスポーツ模擬義足も体験

イ スポーツ用義足体験会

① 第1回

	内容
日時	令和5年2月4日(土) 14時~15時30分
場所	名古屋市東生涯学習センター(体育室)
講師・その他	・(学) 珪山学園専門学校 日本聴能言語福祉学院 専任教員 芥川雅也氏(義肢装具士) ・近藤秀選手(パラ陸上競技) ・(株) 松本義肢製作所・義肢装具士 3名
対象者	義足ユーザー(スポーツ用義足初心者向け)
参加者	19名(うち義足ユーザー4名)

② 第2回

	内容
日時	令和5年2月18日(土) 14時~15時30分
場所	名古屋市福祉スポーツセンター(体育室)
講師・その他	・(学) 珪山学園専門学校 日本聴能言語福祉学院 専任教員 芥川雅也氏(義肢装具士) ・近藤秀選手(パラ陸上競技) ・トヨタ自動車(株) 佐藤圭太選手 ・(株) 松本義肢製作所・義肢装具士 3名
対象者	義足ユーザー(スポーツ用義足初心者向け)
参加者	21名(うち義足ユーザー5名)

③ 第3回

	内容
日時	令和5年2月26日(日) 14時~15時30分
場所	名古屋市障害者スポーツセンター(体育室)
講師・その他	・(学) 珪山学園専門学校 日本聴能言語福祉学院 専任教員 芥川雅也氏(義肢装具士) ・近藤秀選手(パラ陸上競技) ・(株) 松本義肢製作所・義肢装具士 3名
対象者	義足ユーザー(スポーツ用義足初心者向け)
参加者	26名(うち義足ユーザー8名)

※ ①から③について、複数回の参加も可能としたが、体験会の内容は同一内容とした。

④ 内容

概要	本市で購入したスポーツ用義足を教室内で参加者に一時貸出しを行い、スポーツ用義足の装着指導、準備運動、歩行、走行体験を実施	
タイム テー ブル	14 時～	オリエンテーション
	14 時 5 分～	事前準備（参加者問診、使用されている義足の状況確認、組立可能な部品選択、注意事項・使用方法の説明）
	14 時 20 分～	装着確認・準備体操
	14 時 30 分～	歩行確認、走行体験（平行棒内での歩行確認、平行棒外での歩行確認、早歩き体験、走行体験）
	15 時 10 分～	整理体操、部品組換え（自宅でのトレーニング提案、整理体操、日常用義足への部品の組換え、歩行確認）
	15 時 30 分	終了
流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・受付にて、参加者の方に参加同意書等の記載 ・来場された方から順に、義肢装具士から問診、使用している義足の状況の確認 ・（株）松本義肢製作所の義肢装具士等がスポーツ用義足の装着実施 ・芥川氏による全体説明を実施 ・名古屋市総合リハビリテーション事業団の理学療法士の指導のもとで、全体で準備運動を実施 ・（株）松本義肢製作所の義肢装具士等が参加者に個別に平行棒等を用いて、歩行の指導 ・パラ陸上競技の近藤選手によるデモンストレーションを交えながら、義肢装具士がスポーツ用義足での歩行・走行の仕方を指導。参加者に個別に対応 ・スポーツ用義足を取り外し、理学療法士の指導のもとで、全体で整理運動を実施 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目から、重心を感じる練習を目的として、ボールを準備して、使用いただいた。また、整理運動のストレッチについて、初回は椅子に座って実施していたが、マットを準備して、全身を伸ばせるようにした。 ・第2回は、トヨタ自動車（株）の佐藤選手も講師に迎えたため、1回目から続けて参加している方は佐藤選手がメインで指導し、初めて参加の方や子どもは芥川氏や近藤選手、（株）松本義肢製作所の義肢装具士が指導する等、レベルごとに指導者を変えて、対応を行うことができた。 	

⑤ スタッフ役割

名古屋市総合リハビリテーション事業団 義肢装具士等	指導フォロー
名古屋市総合リハビリテーション事業団 理学療法士、体育指導員	準備運動、整理体操

⑥参加者感想

- ・スポーツ義足に興味があり、久しぶりに走れてすごくうれしかったです。ありがとうございました。
- ・分かりやすく説明してくださったので、いつもより早く走ることができました。
- ・初めてスポーツ義足を使用しましたが、とても楽しくわくわくしました！久しぶりに体を動かす楽しさを感じました。またこのような機会があったらぜひぜひ参加したいです！！ありがとうございました！！
- ・もう少しセッティングの時間があるとよりスポーツ義足を使えるようになるし、慣れる。理解でき購入にもつながる。定期開催4か月ごと。
- ・初めてこのようなイベントに参加させていただきました。皆さんがどんどん上達していく姿に感動しました。できる範囲でお手伝いしたいです。
- ・初めて歩くから走行までの様子を見ることができ、段階を追った練習内容を見ることができ、勉強になりました。
- ・子供が体験させてもらいましたが、歩くことも走ることもしたいと前向きに思えたことがとてもよかったです。イベントに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。
- ・元気（意欲）を頂けました。もっとこのようなイベントが広がると良いですね。伝える手段に工夫が必要でしょうか。



慣れてくると軽快に走っていました



義足ユーザーの家族の方も参加されました



佐藤選手にも指導をお願いしました

(5) 競技用補装具貸出事業（スポーツ用車いす）

①概要

	内容
日時	令和4年11月27日（日）13時30分～15時30分
場所	屋外テニスコート（民間企業所有）
講師等	名古屋市総合リハビリテーション事業団（体育指導員）、名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会指導員、日本ガイシテニスコーチ・支援選手等、愛知県車いすテニス協会協力選手、
参加者	49名（うち車いすユーザー12名）
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすテニスの体験、参加者と選手等との交流を目的に開催。 ・地元企業である（株）日本ガイシの関係事業者が運営するテニスコートにおいて、日本ガイシの協力をいただき、名古屋市総合リハビリテーション事業団の体育指導員を中心に実施した。
流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツセンターのスポーツ用車いすを利用して体験 ・体育指導員の指導のもと、全員でスポーツ用車いすに乗った状態で準備運動 ・記念撮影 ・2つのコートを使用して大人と子どもで分かれて実施 ・競技用車いすの体験（コート内を順番に走る。回転する等、こぎ方やターンなど操作方法） ・車いすテニスの体験（ラケットを持って走る） ・スポーツ用車いすに乗車して、止まった状態でボールを打つ ・スポーツ用車いすに乗車して、少し走ってから止まってボールを打つ ・選手等と、ラリーを実施
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・当日は、プレイをする方は、全員、障害者スポーツセンターの競技用車いすを借用して、体験会に参加した。当初は、当該事業により、購入したテニス用車いすも利用して実施する予定であったが、納品が間に合わず、テニス用車いすに限定せず、バスケ用車いす等も使用して実施。

②スタッフ役割

名古屋市総合リハビリテーション事業団（体育指導員）	全体統括、指導
日本ガイシテニスコーチ	指導
日本ガイシ支援選手	
愛知県車いすテニス協会協力選手	
名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会指導員	指導フォロー
日本ガイシボランティア	

③参加者感想

- ・体験会を色々なイベントで開いてほしい
- ・車いすを自在に操り、ボールの打点に入る難しさは想像以上でした。素晴らしいスポーツだと思いました。回数も時間も、もっとあったら良いなと思いました。
- ・ラケットを持って車いすを動かすのを難なくやってのける選手の皆さんは本当にスゴイ！！打点に入るのも難しい。ステップアップするための講習会があったらいいなと思いました。
- ・もっと外で活動できる場面が増えたら良いと思いました。



大人と子どもで分かれて実施しました



初めての方も多く参加されました



多くのボランティアの方に協力いただきました

4 評価指標（評価結果、課題等）

（1）評価結果等

上記事業について、①から③は参加者数を、④から⑦は各事業の参加者アンケートの回答から集計した。

項目	目標	結果
① 講演会・体験会の参加者数	50名	50名 (うち障害者5名)
② 競技用補装具貸出事業（スポーツ用義足）の参加者延べ人数	20名	66名 (うち義足ユーザー17名)
③ 競技用補装具貸出事業（スポーツ用車いす）の参加者延べ人数	30名	49名 (うち車いすユーザー12名)
④ 講演会・体験会、競技用補装具貸出事業（スポーツ用義足・スポーツ用車いす）の満足度 ※ 各事業について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した者の割合	80%	99% (72/73名)
⑤ 障害者スポーツへの無関心層の取り込み率 ※講演会・体験会について、「障害者スポーツ」への理解が「とても高まった」もしくは「やや高まった」と回答した者の割合	80%	100% (30/30名)
⑥ 障害者スポーツへの意欲 ※競技用補装具貸出事業（スポーツ用義足・車いす）に参加した車いす・義足ユーザーのうち、これからもスポーツを続けたいと「思った」もしくは「やや思った」と回答した者の割合	80%	100% (28/28名)
⑦ 障害者スポーツセンター未利用者の取込率 ※競技用補装具貸出事業（スポーツ用義足・車いす）に参加した車いす・義足ユーザーのうち、障害者スポーツセンターを今後も利用したいと回答した者の割合	80%	96% (27/28名)

※ ④から⑥のアンケートは4段階評価で実施

（2）結果に対する評価及び課題等について

評価結果をみると、参加いただいた方には、障害者スポーツの理解を深めていただいております。事業全体として目標を達成することができました。

一方で、参加者のうち、義足ユーザーや車いすユーザーの参加者数は限られており、障害当事者に伝わる情報発信及び参加勧奨が課題である。

スポーツ用義足体験会のアンケート結果によると、義肢装具士等による紹介により参加した方が多いことが分かった。障害当事者に、情報が伝わるように、義肢装具士や理学療法士等に情報を発信していくことが有効である。今回の事業では、民間の義肢製作所や義肢の専門学校と連携することができた。今後は、今回構築したつながりを活かし、情報発信においては、義肢装具士や理学療法士を通して義足ユーザーに伝えていくことにより、障害者スポーツの裾野の拡大につながっていくと考える。

また、競技用補装具貸出事業（スポーツ用車いす）については、民間企業等の協力により、会場確保、指導者やボランティアの派遣といった多岐にわたる協力をいただいた。今後も、こういった初心者を対象とした体験会を実施していくことで、スポーツに取り組むハードルを下げることができると考えており、教室参加者がスポーツを継続していくためにも、連携した民間企業等の関係を活用していくことが有効である。

5 委託事業の成果の活用

本委託事業を通して、現役のパラアスリートによる講演会・体験会を開催し、障害の有無を問わず参加者に障害者スポーツへの理解を深めることができ、障害者スポーツの振興に有効であることが確認できた。本市・愛知県において 2026 年に開催が決定している第 5 回アジアパラ競技大会に向けて、様々な機会を捉えて普及啓発事業を実施し、障害者スポーツの普及啓発、理解促進を図ると共に、一層の機運醸成を行っていく。

また、本市の障害者スポーツセンターは本事業を通して、地域全体の障害者スポーツ用具の活用拠点として、環境整備を行ったところであり、今回整備した競技用補装具を含め、引き続き用具の貸出拠点としての役割も果たしていく。

本事業で購入したスポーツ用車いすについては、障害者スポーツセンターを貸出拠点として、センターの内外での貸出を実施していく。加えて、初心者向けの車いすテニス体験会等を開催することにより、実施機会の提供につなげる。なお、今回、協力を得た民間企業については、引き続き連携をしていく。

スポーツ用義足の活用について、この地域において、取扱いが出来る人材が少ないため、人材育成の観点から、名古屋市総合リハビリテーション事業団の体育指導員、理学療法士や義肢装具士に事前講習会や、体験会に参加いただいた。今回、培った経験を活かして、今後は協力いただいた民間の義肢製作所や学校と連携しながら、体験教室の開催について検討していく。

なお、これらの取組みにかかる情報が確実に障害当事者に伝わるように、情報伝達の方法について検討すると共に、関係者との連携を図っていく必要がある。

以上の取組みに加えて、本市独自に実施する「障害者スポーツ競技用補装具購入費助成事業」により、障害者スポーツに取り組む市民の拡大を図り、より総合的に障害者スポーツの振興が図られるものとする。

障害者スポーツの一層の振興を図るためには、様々な観点から総合的に取り組む必要があり、今後も、障害者スポーツセンターを障害者スポーツ用具活用の拠点として、障害者スポーツの裾野の拡大を図っていく。